愛教研八幡浜支部情報宣伝部だより
JOSEN
2012.10.1発行

去る８月４日（土）、センチュリーホテルイトウにて愛教研八幡浜支部法制対策部・情報宣伝部共催による「市長と教育を語る会」が開催されました。本会は、愛教研会員と市長さんが当面する教育諸問題について話し合うことにより、互いに理解を深めることがその目的です。

当日は、各小中学校の代表者を中心にご参加頂き、市長さんの教育に対するお考えを聞き、熱心に意見交換することができました。以下、そのときの記録(概略)を掲載いたします。

平成２４年度「市長と教育を語る会」平成２４年８月４日（土）

(1) 開会あいさつ・講師紹介　　愛教研八幡浜支部長　小西　基次

(2) 講　話「教育に求めるもの」　　講　師：八幡浜市長　大城　一郎　様

市長として、また保護者の一人として、今思っていることを伝え、共に考えていく時間としたい。

原子力発電所の問題についてどう考えているか。今までは、「いる」「いらない」の議論しかなかった。今は、その間を議論することができる時である。教育の場も同じではないかと考えている。

＜学校について＞

子どもの数が減っている今、学校においては、多人数の中で学べなくなっていることに問題がある。子どもたちの様子を見ていると、先輩・後輩の間の規律がなくなってきていたり、人間関係をつくることが下手になってきていたりしていると感じる。八幡浜市として、その問題を解決するためにも、学校再編に取り組んでいる。本当に良い在り方を考えていかなくてはならない。

＜家庭について＞

かつて、自分たちが子どもの頃には、それぞれの家庭に家族全員でやらなければならない仕事があった。子どもは、その中でたくさんのことを学んでいた。時代が便利になり、失われてきたものもある。携帯電話の普及で、電話の応対や礼儀などを学ぶ機会がなくなってきた。家庭の中で、社会生活の基本となるものが教えられない。この点において、家庭の教育力が落ちてきていることを感じる。

遊びについても変わってきている。子どもたちのカード遊びを見ていると、社会（企業）が子どもの遊びを教育ととらえていないと危機感を持っている。

＜地域について＞

各地の行事に参加するたびに、地域全体で子どもたちを大切にしていることがわかり、本当にありがたい。しかし、教育環境をしっかりと整えていないと、大切な地域の子どもが他地域に流れてしまうことも考えなくてはならない。

今の子どもたちには何が必要なのかを考え、今の時代に合ったつきあい方をしてほしい。

＜これからどうあるべきか＞

昨年７月、福島県陸前高田市市長に「今、私たちに何ができますか」と尋ねたら「（被災の）現状をみんなが忘れないでいること」と答えられた。復興には10年以上かかるので、今後10～20年は引き続き援助をしていきたいと考えている。

人を変えることは難しいが、自分自身を変えることはできる。子どもを変えるためには親が変わらなければならない。「こうなりたい」と思えば、自ずと自分がどう変わればいいのか分かってくる。八幡浜からオリンピックに出場できるような子どもを育てたいと考えているので、みなさんもご尽力していただきたい。

(3) 意見交換

Q　市長が被災地を訪問されて、ぜひ防災教育で取り入れなければならないと考えられていることは何か。

A　訓練の時から児童・生徒達に、「必ず生き残り、この町を背負っていってほしい」という思いを伝えることだと思う。

Q　学校で児童・生徒と一緒に給食を食べて感じられたことは何か。

A　子ども達が残さずに食べている姿を見て、食育の効果を感じた。地産地消には大賛成である。将来、八幡浜に水産加工所を建てる予定なので、学校給食に、そして日本全域に出せる食品を作っていきたいと考えている。

Q　学校の統合の話が出たが、人々にはそれぞれの土地に対する思いがあるので、「新しい学校を作っていく」という気持ちが表れるような形で統合してもらいたい。

A　人の心を大切にしながら、統廃合を進めていきたい。

(4) 謝　辞　　白浜小学校　　川尻　浩校長

少子化、学校再編成、防災等、学校が今抱えている問題について話していただき、様々な事を考えるよい機会となった。また、「自分を変える」という言葉が印象深く心に残った。先生方も自分を変えられる貴重な夏休みを過ごしていただきたい。

子ども達は、市長が学校に来ていただき、給食を一緒に食べていただいたことをとても喜んでいる。２学期以降も接点をもっていただければありがたい。